



この地球上で、この場所で
こうして出会えた奇跡に感謝
こうしてかかわり合うことが
できる縁を大事にしましょう

平戸市立大島中学校
令和元年度学校だよりN o 9
令和元年7月12日
文責 校長 吉尾直樹

大島を支える子どもを育てるために

7月11日 第1回学校運営協議会

7月11日（木）に大島村公民館で第1回学校運営協議会が開かれました。これは昨年度から説明をさせていただいたように、4月に大島小学校・大島中学校コミュニティ・スクールが平戸市教育委員会から指定されたことを受け、大島村青少年健全育成会議の中から代表となる委員を選び、設置されたものです。



平戸市教育長の小川茂敏様と平戸市教育員会コミュニティ・スクール担当の堀江泰賢様にご出席いただき、小川教育長から委員を代表して大島中PTA会長の川久保光洋さんに学校運営協議会委員の任命状を手渡していただきました。なお、委員は下表の方々です。

会議では、まず、会長・副会長を選出し、会長には大島中PTA会長川久保さん、副会長に大島小PTA会長柴山さんが選任されました。

この大島小学校・大島中学校コミュニティ・スクールでは、①どのような子どもを大島村全体で育むのかを明らかにし、それを地域と学校とが共有し、小中連携、学社融合など地域と学校の協働を行う中で達成する。②小学校、中学校の特色ある教育活動について地域に説明し、学校運営に地域の声を積極的に生かす。という2点をねらいとしています。

そのため、小学校と中学校の特色ある教育活動の説明、公民館からの学社融合事業の説明を行い、委員の皆様からご意見をいただきました。

小学生、中学生で進める少人数を生かした学力向上の取組、今年度から始めた小中連携英語、さまざまな支援員を活用した学習の充実については高く評価していただきました。また、小学校の鼓笛隊や伝統芸能の取組、実行委員会を中心とした中学校の朝のランニングや合唱、リズムダンスについてもその成果を認める声を多くいただきました。さらに、学社融合事業による大島村の歴史や伝統文化に関する学習や大島村漁協・女性部による小学校の海の子常会や中学校の水産教室での魚さばき体験、若芽会による郷土料理の学習、公民館と社協によるボランティア体験学習、さらには、ほんわかクラブによる読み聞かせ、老人クラブとのゲートボールや昔遊び体験など、大島村ならではの取組が多く行われており、子どもたちが多くの方々に支えていただいていると改めて感じることができました。

教育長からは昨年度の全国中総文祭でのリズムダンスの活躍についてのお話があり、多くの委員からこうした島内外でのさまざまな体験が、児童生徒が少年の主張大会で堂々とした態度で発言したり、各大会で力を発揮したりしている原動力になっているという発言がありました。

一方で、子どもたちが忙しく、特に中学生では一人の生徒が複数の実行委員を務めるために、負担が大きいという課題があります。夏休みも子どもたちが忙しく、時間がない。家のことを手伝ったり、親とともに何かをしたりする経験が大切ではないか、というご意見もありました。

今年度は、できるだけ取組が重ならないように学校暦の工夫をしていますが、今後も、生徒一人ひとりの負担が過重にならないように気をつけたいと思います。また、昨年度は夏休みに全国中総文祭があり、どうしても練習時間の確保が必要なため昼からの活動を行いました。本来、夏休みは、家庭や地域での活動を十分に確保することが大切です。今年度は、部活動の開始時刻を昨年度より1時間早め、8:00～11:00としました。熱中症を予防することもねらいの一つですが、11:00から学年での学習会や生徒会活動等の時間を確保し、原則として午前中までで生徒を帰宅させるように予定しています。こうすることで、子どもたちが家庭や地域のことに取り組んだり、自分で時間をどのように使うのかを計画したり



することができるようにしたいと考えています。また、土曜日、日曜日は部活動も原則中止であり、8月10日～15日は学校閉庁期間として部活動はありません。ぜひ、夏休みにしかできない多くのことを体験してほしいと思います。

こうした多くの意見を学校運営に生かしながら、小中連携と地域と学校の協働を進めながら「ふるさとを支える大島っ子の育成」に取り組んでいきます。今後とも、ご理解とご支援をお願いいたします。